

3. 商工関係団体

① 商店街の組合員事業者が地域の住民の困りごとを解決する取組【発寒北商店街振興組合】

| 発寒北商店街振興組合（ハツキタ商店街） | 「ハツキタくらしの安心窓口」の概要 |
|---|---|
| <p>昭和46年に発寒北商工振興会が設立され、昭和52年に発寒北商店街振興組合を設立。平成10年には発寒流雪溝を整備し、地域住民から冬期間雪山のない商店街通行で利便性を向上させ、感謝されている。安心・安全で楽しく生活が送れるための『40年後、札幌で一番住みやすい街へ』を合言葉に、地域の小・中学校や住民と協力しボランティア『ハツキタ倶楽部』による花いっぱい運動、ふれあい夏祭り、スノーキャンドル、地域に学ぶ職業体験などを開催している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 所在地：札幌市西区発寒12条3丁目4-13 安住ビル1階 ○ TEL：011-663-8541 ○ FAX：011-663-8541 ○ URL：http://www.hatsukita.com/ | <p>「ハツキタくらしの安心窓口」は、発寒北商店街振興組合と加盟店である地元事業者が協力し、様々な暮らしに関する相談を受けている。</p> <p>対応する事業者はすべて発寒北商店街振興組合に加盟する地元事業者。</p> <p>くらしの安心窓口では、商店街周辺の家庭からの相談を受けると、加盟店の中から最適な事業者を選定、連絡を受けた事業者が迅速に相談者に対応するシステム。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 所在地：札幌市西区発寒12条3丁目4-13 安住ビル1階 ○ TEL：011-624-5768 |

地域の困りごとを解決する取組のポイント

「発寒北商店街振興組合(ハツキタ商店街)」は、「40年後、札幌で一番住みやすい街へ」との理念のもとに活動しており、各事業・イベントでは、地域コミュニティの担い手として、「子育て支援・教育支援」、「世代間交流」、「商店街利用・店舗利用促進」、「環境問題・エコロジー」、「収益事業」、「安心安全なまちづくり」、「地域間交流・地域団体交流」、「情報発信」の目的ごとに様々な取組が行われています。

今回は、様々な取組を進める中で、地域の声をもとに、地域住民の困りごとを商店街で解決できる事業であり、地域密着の取組です。

地域の状況

商店街は、JR 函館本線発寒中央駅から北に伸びる通称「ぎんなん通り」(約1.5km)を中心とした地域にある商店街で、「ハツキタ商店街」の愛称で呼ばれています。

発寒北地域は、人口約18,000人、世帯数約8,700世帯、高齢化率26.4%となっています。

近くには工業団地があり、昔から飲食店を中心に店舗が並び、昭和46年に発寒北商工振興会が設立、現在の商店街振興組合として法人化したのは昭和52年です。

取組の背景

少子高齢化と産業構造の変化の影響で、高齢化率が上昇する中、近隣への大型店の出店による来街者の減少、空き店舗の増加などにより、設立当初107名を数えた組合員も平成22年には68

名にまで減少しました。

こうした中で、商店街は、自らの存在意義を見つめ直し、地域住民と顔の見える関係の再構築を進めることとし、平成22年に取組を始めた「家庭の廃油回収事業」では、商店街全体の回収量の7割以上を占める結果となり、改めて、商店街が地域に頼られる存在と認識されました。

この取組をきっかけに、「モノを提供するだけの存在からサービスを提供する存在に特化しよう」との考えから、住民ニーズを商店街活動に組み入れ、地域コミュニティの担い手としての役割を果たしていくための取組を進めました。

「40年後、札幌で一番住みやすい街」となるために、まずは、今、住んでいる子供たちが将来、この地域に愛着を持ち続けるきっかけづくりのため、地元小中学校との連携強化に乗り出しました。

地元小学生との「スノーキャンドルづくり」では全校児童に対象が拡大したほか、中学生の「職業体験学習」では対応する参加店舗が増加し多様化が進むなど、着実に活動を広げてきました。



連携のきっかけづくりに際しては、趣向を凝らしたアイデアも盛り込まれており、その一つには、学校の「トイレ清掃」があります。

素手で便器を一つひとつ清掃するもので、最初は抵抗感を示していた子供たちも、商店街の組合員が率先しながら、その意義を示すことにより、今では、子供たちも取り組んで良かったと思えるような取組に成長しています。



もう一つは、全道で初めて導入した地域通貨「アトム通貨」です。これは、域内循環の拡大を目指すだけでなく、ネームバリューのあるキャラクターを使うことで地域通貨自体に「プレミアム感」を持たせたことから、子供たちは持つこと自体に満足感を抱くこととなり、結果として地域の社会貢献活動への参加拡大に繋がっています。

こうした地域の子供たちとの取組は既に10年以上続いており、今では、地域行事として定着していますが、これも、「40年後、札幌で一番住みやすい街」を目指す商店街が、将来この地域を担うであろう子供たちとの様々な触れ合いを通じて、子供たちの心に商店街地域への愛着や誇りを育んでいくためものです。

平成25年には、国の補助事業を活用して、商店街に福祉拠点としてのコミュニティ施設「にこびあ」を整備しました。

この施設では、商店街としては全国的にも珍しい「デイサービス事業」に取り組むとともに、子育て中の親らが意見交換できる場として、子供が遊べる空間を併設した「ハツキタ茶屋ぎんなん通り」を開店させたほか、各種教室やセミナーに活用できる「レンタルスペース」を設けることによって、高齢者が家から商店街に来るきっかけづくりのみならず、子供や子育て世代などを含め、幅広い世代が交流できる場として機能しています。

地域の住民の困りごとを解決

商店街では、地域住民の困りごとやニーズに耳

を傾けた様々な取組が行われています。

特に「商店街＝生活街」の観点から、平成24年に開設した「ハツキタくらしの安心窓口」は、高齢化が進展していく中、地域住民が日々を安心して暮らすことができるよう、商店街が住民の困りごとに対応する「ワンストップサービス」を提供するものです。

蛍光管の取り替えや水回りの補修など、家の修理や設備工事、不動産、財務や相続・遺言相談など幅広いもので、暮らしに関する相談を商店街が受け付け、適切に対処できる商店街の業者を選び、住民に紹介しており、加盟する事業者の売上向上にも繋がっています。

取組当初は、参加事業者側も意識の統一は簡単ではありませんでしたが、打ち合わせやサービスの提供を繰り返しながら商店街の思いを浸透させていくことにより、意識の醸成が図られ、今では、参加事業者も20社を超えるなど、地域住民にとってなくてはならないサービスとなっています。

「くらしの安心窓口」は、平成28年で5年目を迎え、商店街では、この間に行ったニーズ調査などを踏まえ、この「窓口」をより身近な存在として、安心して利用してもらえるための環境づくりを進めています。

今後の展開

商店街では、モノを売ることからサービスの提供へと転換を進めてきていますが、こうした取組が功を奏して知名度が上がり、サービス業を中心に様々な業種、そして若い人による新規出店が増え、組合員数も平成27年には102名にまで増加しています。

また、若者の参画により商店街自体の新陳代謝も進んできており、高齢化や後継者不足も徐々に解消されつつあるほか、商店街の事業実施に当たっても、理事会では幅広い年代による議論が活発化するとともに、若者が事業の担い手として成長してきていることは、将来に向けての明るい材料となっています。

商店街としては、今後とも地域コミュニティの担い手として、地域の様々な年代の住民と連携しながら、住民の生活に寄り添える商店街としての活動を進め、今の子供たちが将来、胸を張って「札幌で一番住みやすい」といえる街を目指していくこととしています。